

## 令和元年度第1回横須賀市再犯防止対策連絡会議 会議録（要旨）

1 日時 令和元年7月30日（火）10時から

2 場所 横須賀市消防局庁舎消防第3会議室

### 3 出席者

委員 18名中18名出席（うち1名代理）  
関係者 オブザーバーとして、東京矯正管区と横浜刑務所から3名出席  
事務局 横須賀市市民部長、市民生活課職員2名

### 4 資料

- (1) 横須賀市再犯防止対策連絡会議 委員名簿
- (2) 横須賀市再犯防止対策連絡会議設置要綱
- (3) 横須賀市再犯防止対策連絡会議の設置について
- (4) 再犯の現状と防止対策
- (5) 再犯の現状と防止対策（少年）
- (6) 第1回横須賀市再犯防止対策連絡会議 情報シート
- (7) 【横須賀市】再犯防止推進関連事業等一覧表
- (8) 参考1 再犯の防止等の推進に関する法律 概要・再犯防止推進計画
- (9) 参考2 横須賀市 推計人口

### 5 委員提供資料

- (1) 更生保護～地域社会とともに歩む
- (2) やり直せる社会に賛成です～横須賀更生保護サポートセンター（リ・ボーンよこすか）
- (3) 更生保護女性会活動のしおり
- (4) 関更女だより
- (5) 社会福祉法人横須賀市社会福祉協議会
- (6) 第5次地域福祉活動計画
- (7) よこすか心のホットライン
- (8) こけこっこー通信 No.1～3
- (9) 犯罪や非行をした人の立ち直りを支える 雇用という社会貢献（当日配布）

### 6 議事

会議設置要綱の規定により市民生活課長が座長に就任。職務代理者を指名し、会議の原則公開を確認して議事に移った。

#### (1) 横須賀市再犯防止対策連絡会議の設置について

事務局から、資料3に沿って設置の目的、内容、構成員等を説明。

#### (2) 再犯の現状と防止対策について

##### ア 横浜保護観察所

資料4に沿って再犯者数の推移、再入率の状況等や必要な支援について説明。

## イ 横浜少年鑑別所

資料5に沿って再非行少年率の状況や関係機関との連携の必要性等について説明。

## ウ 東京矯正管区

こけこっこー通信No.1-2に沿って、無職者等の支援を必要とする者に対して地域で様々なサービスを行き届かせることが再犯防止につながることを説明。

### 【主な質疑等】

- ・ 県内の統計上、横須賀市は覚せい剤の保護観察事件の割合が他の地域よりも高い。環境も一因と考えられる。少年では増加傾向にある大麻等、他の薬物事犯の再犯も減らしていかなければならない。
- ・ 横須賀刑務支所の出所者と久里浜少年院の出院者の多くは、横須賀市に居住することはない。横須賀刑務支所の入所者は近県の初犯の受刑者、久里浜少年院の入院者は再非行を繰り返す東京甲信越、東日本の子どもであることから、出所・出院後の多くは市外へ帰っていく。
- ・ 現在、暴走族はほとんどいない。平成29年の少年院に入った男子の56.3%は、不良集団とのかかわりが無い。
- ・ 協力雇用主による実際の雇用は少ない。多様な業種の協力雇用主を確保するとともに、雇用に害する不安等をサポートしながら雇用につなげていきたい。

### (3) その他情報交換

事務局から、資料7に沿って横須賀市が取り組んでいる再犯防止に役立つ事業等を説明。

### 【情報交換】

- ・ 久里浜少年院では、社会に居場所がなく非行に走ってしまった子どもたちの比率が高くなっている。これまで少年院の実態について伝えることが少なく、暴力やいじめの誤解もあることから、近年行ってきた参加や研修の受け入れ、市内中学校への職員派遣等の取り組みを今後さらに広げて、地域と顔の見える関係を作っていきたい。
- ・ 市内にもある県警の少年保護相談センターでは、事件にいたる前の相談を受け、相談員によるカウンセリングを行っている。鑑別所の法務少年支援センターもカウンセリングを行っており、警察との役割分担について参考にしたい。
- ・ 保護司会では、社会を明るくする運動等で更生保護について理解を広げる取り組みを行っている。また、保護司と活動内容を知ってもらうことと、薬物防止関係などでの協力の意志を伝えるため、小・中学校の学校訪問に力を入れている。今後は、高校にも広げていきたい。
- ・ 矯正施設に入らず入口支援を受けた人と出口支援を受け釈放された人、少年への対応と成人への対応はそれぞれ異なるので、それらを振り分けて、どの機関がどのように動くかを整理すると、有益な議論ができると思う。
- ・ 出所後の福祉・医療や就労につなげることについては、在所中に刑務所等の機関が取り組むが、帰住先での日々の生活支援は市町村レベルでの対応が重要と考える。
- ・ 横浜刑務所に参観等に来ていただく機会があれば、刑務所の再犯防止に向けた取組状況が分かると思う。当会議で要望があれば対応したい。

- ・小さいころから人間関係を築く力を育てるため、学校での教育や、支援教育課で取り組んでいる共生社会を作るという視点でのインクルーシブ教育が非常に重要だと考える。もう一つの大きな課題として、衝動的に暴力を振るったり物に当たってしまう、発達障害のある子どもが確実に増えてきており、適切な対応が遅れることにより非行に走ることも考えられる。子どもたちが成長の中で犯罪等に走ってしまうことについては、警察の力を借りたり、帰ってくるときには刑務所や少年院の力を借りたりしながらよりよく対応していきたい。

**【閉会・事務連絡】**

次回は1月開催を予定している。後日、事務局で日程調整する。